

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5 月 16 日現在

機関番号：15301
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21592648
研究課題名（和文） 障害者の生涯にわたる口腔のQOL向上を目的とした地域連携クリティカル・パス開発
研究課題名（英文） Development of Clinical Pathway in the Community for Oral Health Care to the Disabled People
研究代表者
江草 正彦（EGUSA MASAHIKO）
岡山大学・岡山大学病院・教授
研究者番号：90243485

研究成果の概要（和文）：

われわれは、障害を有する患者が、最少の負担で最適な治療を受けられるよう支援する目的で、障害者歯科における地域連携クリティカルパスを開発した。パスの内容に反映させるために地域の障害者における歯科の現状について実態調査をおこなった。また、倉敷地区にてクリティカルパスを試行した。

研究成果の概要（英文）：

In order to support disabled people to receive an optimal treatment with a minimum burden, we developed a liaison clinical pathway of oral health care for disabled people.

We performed a factual investigation about the present circumstances of dentistry for the local disabled people to reflected it in the path. In addition, we tried the path in Kurashiki district.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：障害者歯科学

科研費の分科・細目：歯学・社会系歯学

キーワード：障害者歯科、地域医療連携、クリティカルパス、ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

わが国における障害者歯科医療は、歯科医師会主宰の口腔保健センター等（第2次医療機関）を中心として、地域に密着した一般歯科開業医（第1次医療機関）や麻酔管理など

高度な医療を提供する大学病院（第3次医療機関）などが、それぞれの機能に応じて、障害者の歯科治療を行ってきた。しかし現在においても重度の障害者を受け入れることの出来る一般開業医は限られており、大学病院

や口腔保健センターなどの高次歯科医療機関は、その多くが都市部に偏在している。したがって、通院に関して様々の制約を有することが多い障害者にとって、住居の近くに受診に適した歯科医療機関がない場合、通院は大きな負担となっている。また、障害者が各歯科医療機関に関する情報を入手する手段は限られており、各医療機関相互の情報交換の手段も限られているのが現状である。そのため障害者側では、障害者に対応した歯科医療機関を見つけることが困難で、スムーズな医療連携の必要性が高いと思われる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域の障害者の歯科的支援を生涯にわたってサポートするための地域医療連携クリティカルパスの開発を行うことである。

3. 研究の方法

- (1) パスを作成する資料として岡山县内の障害者歯科医療の実態調査を行う。
- (2) パスの項目を実態調査の結果をふまえて連携医療機関関係者で協議を行い作成。
- (3) IT ベースでの情報提供・共有の方法についての検討をおこない、患者紹介機能を有する地域連携ウェブサイトを設置。
- (4) 倉敷地区においてパスを平成 23 年 1 月から 12 月までの期間パイロット的に施行。第 3 次医療機関：岡山大学病院、第 2 次医療機関：倉敷歯科医師会口腔保健センター（以下センターと略す）そして第 1 次医療機関：倉敷地区の協力医とする。

4. 研究成果

(1) 地域連携クリティカルパス作成のための実態調査をおこなった。

① 「地域歯科医療機関と障害者歯科のかかわ

りに関するアンケート調査」を行った。結果は障害者歯科においてはより安全に的確な治療を行う上で専門の高次医療機関との連携と日々の予防管理を行う地域のかかりつけ歯科医のネットワーク作りは今後の大きな課題となった。そのためスムーズな連携には地域連携クリティカルパスの必要性が求められた。

② 「岡山县内の障害者における歯の保持状況および齲蝕の処置状況に関する横断調査」を行った。結果は欠損歯の割合は、全年齢層において、対象者の方が厚労省調査よりも多かった。齲蝕が重症化しやすい障害者において歯の喪失防止を図るためには、生活環境の変化に関わらず、安定して歯科受診できる体制作りが望まれた。

③ 「岡山大学病院 障害者歯科治療部門より地域歯科へ紹介した患者について」の調査を行った。結果は障害をもつ患者の地域との連携した歯科治療には地域連携クリティカルパスによる情報の共有化が求められていると考えられた。

④ 「岡山大学病院摂食・嚥下リハビリテーション部門を受診した小児患者について」の調査をおこなった。結果は紹介元は岡山大学医学部が過半数を占めていたが岡山市、県外や遠方からの受診も多く、今後地域連携クリティカルパスによる双方向の連携の充実が求められた。

以上の実態調査の結果をふまえて、ターゲットとする疾患および障害を選定し、それぞれの疾患・障害について予防、治療および機能回復の 3 部門について地域連携クリティカルパスを作成した。

(2) 1 年間のパスの運用では、センターと岡山大学病院との連携が 10 人で、そのうち知的障害・自閉症が 7 人であった。いずれの患者もセンター来院前の歯科治療経験では抑制治療を受けていたため、歯科治療の適応が極め

て困難であった。そのため今回、大学病院における紹介患者の治療は静脈内鎮静法または全身麻酔法下での治療を選択した。治療終了後は10人ともセンターへ紹介した。岡山大学病院と倉敷地域の歯科医院との連携は3人であり、知的障害および高機能自閉症であった。治療内容はいずれも抜歯があり全身麻酔を選択した。3人ともに発達年齢が高く、患者の特性等についてパスに情報を添付することで歯科医院でのメンテナンスが可能となった。センターから地域の歯科医院へ紹介した患者は2人で高機能自閉症であった。患者はともにコミュニケーションには問題なくセンターでの適切なトレーニングと患児の障害特性をパスに添付することで歯科医院との連携が可能であった。以上より本パスを有効に運用し地域完結型医療を展開するためには、特に患者の障害特性を理解した第1次歯科医療機関を増やすことが重要と考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計20件)

- ① 江草正彦、森 貴幸、森田 学、宮脇卓也、障害者の生涯にわたる口腔のQOL向上を目的とした地域連携クリティカルパスの開発、岡山歯学会雑誌、査読有、31(1), 2012, 掲載確定。
- ② 小笠原 正、全身麻酔下歯科治療後の歯科保健管理の中断要因の検索、障害者歯科学会雑誌、査読有、33(1), 2012, 42-46。
- ③ 山中玲子、森田 学、頭頸部がんチーム医療における口腔ケアの促進、岡山歯学会雑誌、査読有、30(2), 2011, 61-68。
- ④ 森貴幸、宮脇卓也、江草正彦: 歯科疾患実態調査のパーセンタイル値を利用した障害者の現在歯数に関する研究(第2報) 地域の知的障害者を対象とした横断調査より、障害者歯科学会雑誌、査読有、31(1), 2010, 59-71
- ⑤ 隅田佐知、小笠原 正、江草正彦: 発達年齢の高い自閉症児者の不適応要因、障害者歯科学会雑誌、査読有、31(2), 2010, 193-198
- ⑥ 沼本庸子、森 貴幸、宮脇卓也、江草正彦: 匿名アンケートを用いた岡山県内の障害者における歯科受診行動と歯科医療体制への希望に関する意識調査—地域連携クリティカルパス作成のための実態調査—、岡山歯学会雑誌、査読有、29(1), 2010, 25-34。
- ⑦ 江草正彦、森 貴幸、宮脇卓也、他、地域歯科医療機関と障害者歯科のかかわりに関するアンケート調査—地域連携クリティカルパス作成のための実態調査—、岡山歯学会雑誌、査読有、28巻、2009, 131-140。
- ⑧ 森 貴幸、江草正彦、宮脇卓也、岡山県内の障害者における歯の保持状況および齲蝕の処置状況に関する横断調査—地域連携クリティカルパス作成のための実態調査—、岡山歯学会雑誌、査読有、28巻、2009, 141-150。
- ⑨ 有岡享子、森 貴幸、江草正彦、宮脇卓也、岡山大学病院摂食・嚥下リハビリテーション部門を受診した小児患者について—地域連携クリティカルパス作成のための実態調査—、岡山歯学会雑誌、

査読有、28 巻、2009, 163-168.

- ⑩ 北 ふみ、森 貴幸、江草正彦、宮脇卓也、岡山大学病院特殊歯科総合治療部第一総合診療室障害者歯科治療部より地域歯科へ紹介した患者について —地域連携クリティカルパス作成のための実態調査—、岡山歯学会雑誌、査読有、28 巻、2009, 169-174.

[学会発表] (計 30 件)

- ① 江草正彦、障害者歯科における地域連携クリティカルパスの実践、第 28 回日本障害者歯科学会総会および学術大会、2011 年 11 月 5 日、福岡国際会議場。

- ② 森 貴幸、江草正彦、宮脇卓也、他、障害者歯科における地域連携クリティカルパス開発について、第 26 回日本障害者歯科学会総会および学術大会、2009 年 11 月 1 日、名古屋国際会議場。

[その他]

ホームページ等

<https://posgra.dent.okayama-u.ac.jp/nikonikodental/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江草 正彦 (EGUSA MASAHIKO)

岡山大学・岡山大学病院・教授

研究者番号：90243485

(2) 研究分担者

森田 学 (MORITA MANABU)

岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授

研究者番号：40157904

森 貴幸 (MORI TAKAYUKI)

岡山大学・岡山大学病院・助教

研究者番号：90274000

小笠原 正 (OGASAWARA TADASHI)

松本歯科大学・歯学部・教授

研究者番号：10167314

(3) 連携研究者

宮脇 卓也 (MIYAWAKI TAKUYA)

岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授

研究者番号：00219825